

2015年度
関西学院大学ロースクール

B日程

一般入試（法学既修者）

民法問題

《10:00～12:00》

○開始の指示があるまで内容を見てはいけません。

【民法問題】

以下の設問に答えなさい。

[設問1]

Aは、2008年4月に甲地を購入し、そこに乙建物を建て旅館を営んでいたが、旅館開業1年後の2009年8月に、Aの内縁の夫Bが書類を偽造し、Aに無断で、甲地と乙建物についてAB間の売買契約を原因とするB名義の所有権移転登記をした。Aはしばらくしてその事実を知り、Bに抗議し、Bも謝罪して登記名義をAに回復することを約束した。しかし、登記費用の捻出が困難であったこと、また、その後AとBが正式に婚姻し同居するにいたったこともあって、名義の回復はなされないままであった。また、この間、2011年10月には、AがD銀行から借入をする際にも、B名義のままに抵当権設定登記がなされていた。

その後、2014年5月に至り、AはBと離婚することになったが、その直前の2014年4月に、BはCに甲地と乙建物を売却した。Cは、B名義になっている甲地と乙建物が本当はAの所有物であることは知らなかったが、Aとは親しい間柄であり、Aに確認するなどすれば、甲地がAの所有であることは容易に分かる状況であった。しばらくして、AはCから退去請求を受けたが、このようなCの請求は認められるか。なお、甲地と乙建物の登記名義は、まだBのままである。

なお、[設問1]の解答にあたっては[設問2]の内容を無視して考えること。

[設問2]

その後、Cは登記名義を自分に移し、甲地と乙建物の本当の所有者がAであることを知っているDに甲地と乙建物を売却し、登記名義もDに移転された。[設問1]でCの請求が認められると仮定した場合に、AはDに対し、登記の抹消を請求しうるか。